

## 濁水対策を進めるWG 要旨

日 時： 平成28年10月31日（月）9：00～10：30  
場 所： JA土佐香美 本所 2階 第一会議室  
参加者数： 16名

事務局より、別紙資料1に基づき、過去の分析結果を報告した。

### 【主な意見】

- ・ 浅水代掻きの取り組みを行っている面積や生産者数は把握しているか？
- ・ 以前に浅水代掻きの取り組みについてアンケートを行ったこともあるが、追跡調査は行っていない。現状、面積、生産者数は把握できていない。
- ・ アユに冷水病が出るようになったことから、原因解明のために濁度調査を始めた。代掻きの時期は、香宗川も濁りが酷くなるので、流域全体で取り組んでいく必要がある。
- ・ 本川でも一か所濁度調査をやってはどうか？代掻きの時の濁水が本川へどれだけ影響を及ぼすか知るための目安になると考えられる。
- ・ 浅水代掻きの普及に向けての目標設定を作らなければ、拡がりが見られない。面積や生産者数を目標として、取り組みの拡大を行えば課題も分かってくる。また、浅水代掻きブランド米のようなメリットも必要なのではないか。
- ・ 集出荷の関係上、浅水代掻き米だけを分別してブランド化することは困難。何らかのメリットは必要だとは思いますが、念頭に入れながら行動していく必要がある。

以上の結果、今後の方向性として下記の通りとすることで決定した。

#### 1. 調査個所の追加

H29年作（H29.3～4月末）の調査から、本川で1地点調査を行う。調査場所については、11月の調査時期に事務局で目途を付け、春の調査から行う。

#### 2. 調査時期の追加

代掻きの対比となる11月期の調査を行う。

#### 3. 調査担当の追加

流域を挙げて取り組むため、JAも調査団体に加わる。

#### 4. 目標設定の作成

農業振興部、JA等と協議のうえ、水田面積・生産者数等の数値を出し、目標を作成する。